

11月12日(土)に「ガンの飛立ち観察会&コクガン観察会ツアー」を開催しました。伊豆沼でマガンの飛立ちを見た後、南三陸・海のビジターセンターからコクガンを観察しました。

Vol.150

令和4年度12月号

地元小学生が、植栽と魚採り

伊豆沼に最も近い場所にある新田小学校の5年生が、沼の水生植物保全活動と魚採りを体験しました。植栽は3年連続の活動となり、先輩たちが植えた場所の隣に、今年はマコモ50株とフトイ30株を植えました。来年には先輩たちの株と同じく、大きく育った姿が見られることでしょう。

定置網に入った魚を回収



全員で記念撮影



雷魚も入っていました



水生植物の植栽の様子



トヨタ自動車東日本(株)による環境保全活動



力を合わせて“せーの！”



トヨタ東日本自動車(株)による今年度2回目のCSR(社会貢献)活動が11月19日に行われました。

今回の作業は、前回9月24日に作成した板柵を、水生植物園内の池に打ち込む作業です。トヨタ東日本自動車(株)から14名の方々が参加され、日頃の作業と違う慣れない土木作業でしたが、難なくこなしました。暦の上では立冬を迎えましたが、暖かく穏やかな天気にも恵まれたこともあり、時折、冗談や笑いが出るなど、和やかな雰囲気作業を終えることができました。



ご覧の通り、見事な護岸が完成です。

平筒沼での環境学習（出前講座）



魚を網ですくい上げ、大喜びの子ども達

登米市の平筒沼において、地元の小学生を対象とした環境学習会が行われました。学習会では、当財団の職員による平筒沼に住む生き物の説明や、この地域において行われている生き物の保全活動の解説、沼に住む魚やエビの観察会が行われました。

平筒沼の周辺は、7月の大雨により植栽されたサクラの一部が枯死するなどの被害が生じました。観察会当日は、平筒沼周辺の木々も紅葉し、マツモなどの水草も観察することができるなど、洪水の影響は落ち着いてきているように見られました。

様々な生き物の生息する平筒沼を通して、参加された小学生が生き物に興味を持ち、環境保全に関心を持ってくれることを願ってやみません。

— 日本ジオパークネットワーク全国研修会in栗駒山麓で伊豆沼・内沼研修

11月20～23日にかけて、日本ジオパークネットワーク全国研修会in栗駒山麓が栗原市で開催されました。北海道から鹿児島県に至る全国各地から69名が参加し、ビギナーコースと経験者コースに分かれて、保全をテーマに伊豆沼・内沼と荒砥沢地すべり地帯での巡検、グループディスカッションなどを行いました。伊豆沼・内沼では水生植物園で沈水植物の復元や遊歩道整備などのワイズユースの解説の後、ガンのねぐら入りを観察しました。圧倒的な数のガンのねぐら入りに、参加者は驚きの声を上げていました。



ガンのねぐら入りを観察する参加者

— 伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～ ミコアイサ ～



写真:ミコアイサのオス(撮影:狩野博美氏)

ミコアイサは冬に渡ってくるカモの仲間です。オスは全体的に白い羽色で、眼の周囲が黒色で、パンダガモとも呼ばれています。小魚をはじめとする魚介類を潜水して食べます。

オオクチバスの増加による魚介類の減少によって、かつて大きく減少しましたが、バス駆除活動が功を奏し、現在増えているカモです。伊豆沼・内沼自然再生事業の成果を評価するモニタリング対象種のひとつになっています。

